

【鶴見区】令和5年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和5年6月12日 11時20分 ～ 12時20分
場 所	鶴見区役所6階 8・9会議室
出席者	<p>【座 長】井上さくら 議員</p> <p>【議 員：6名】渡邊忠則 議員、尾崎太 議員、古谷靖彦 議員、 山田一誠 議員、東みちよ 議員、柏原すぐる 議員</p> <p>【鶴見区：25名】</p> <p>渋谷治雄 区長、檜山明子 副区長、市川裕章 福祉保健センター長、 中村隆幸 福祉保健センター担当部長、桐山大介 鶴見土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和5年度鶴見区の予算について</p> <p>2 令和5年度鶴見区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p>
発言の 要 旨	<p>古谷 議員： 防災活動推進事業に関連して6月2日の大雨について、区内は大きな被害はなかったと聞いた。一方で、例えば生麦中学校で校内の階段の3階から1階まで雨水が相当な勢いで流れ落ちたということを知っているが、こういったことは把握していたか。</p> <p>武 総務課長： 先日の大雨は、物的被害が1件、人的被害が軽症1件、避難所を3か所開設して4名の方が一時的に避難されていた、ということを知っている。話にあった学校内のことは把握できていなかったが、把握するようにしたい。</p> <p>古谷 議員： 現場の屋上まで上がって見たが、確かに排水箇所が少なく、屋上部分に水が溜まって、それが校内にまで入り込んだということで、学校の対応が大変だっただろうと思う。教育委員会にも直接伝えたが、ぜひ区でも把握してほしい。</p> <p>古谷 議員： 区配事業の横浜子育てサポートシステムで、今年度から子どもの預かりおためし券が配付されることになったが、活用状況、区内での対象や配付状況についてはどうか。</p>

齊藤 こども家庭支援課長：おためし券は7月から配付される予定と聞いており、まだ動き出していない状況となっている。対象は、今年の4月以降に生まれたお子さんのいる世帯となる。

古谷 議員：非常に良い制度だと思うので、来月から始まるということであれば、ぜひ対象の方に周知をしてほしい。

古谷 議員：区別の局事業概要のところに水管橋の点検及び診断とあるが、鶴見区では水管橋が何か所あり、架け替えなどの対応が必要なものは何か所あるのか。

中島 区政推進課長：手元に詳細なデータ等がないため、後ほどご報告する。

東 議員：令和5年度の執行予算に関しては、これまで3年間コロナで様々な活動が停止、行動制限されてきた中で、新たに始める活動に対する支援という意味合いがあるかと思う。そうした観点で、千客万来つるみプロモーション事業は、今年度はコロナ前と同様の規模で計画されていると考えてよいか。

中島 区政推進課長：コロナが落ち着いて、先日の三ツ池公園フェスティバルなど既に始まっている地域のイベントなど、ほぼコロナ前に戻りつつある。現在、各種イベントもコロナ前に戻るような形で予定が組まれており、元に戻りつつあると認識している。

東 議員：先日も潮田祭りなど大きなイベントがあったが、ほぼコロナ前と同様の規模で行われており、やはり地域の繋がりを取り戻せるということを地域の方も本当に喜んでいたので、コロナからの回復という意味も込めてコロナ前と同様の規模で計画を進めてほしいと思う。

東 議員：防災についても、この3年間防災訓練がなかなかできなかったという声も聞いている。先日、花月園公園での民間の防災イベントに参加したところ、例えば、災害時の非常電源が一度も使われておらず、動かさないと劣化してしまうため動かさなければいけないとか、重い非常用トイレをどうやってマンホールまで持っていけばいいかなど、様々な発見があった。今回、拡充事業として防災備蓄庫の整理が挙げられており、ぜひ定期的にやってほしいと思うが、どのように進めるのか。

武 総務課長：防災備蓄庫が逼迫しており、まずは整理整頓が必要だとい

うことで、備蓄庫の備品整理やレイアウト変更に関して委託を考えている。専門家のノウハウ等について、地域の方も一緒に学んでもらい、今後ずっと使っていただけるよう考えている。実践的な訓練は今後も必要であり、引き続き地域の方と協力して訓練を進めていきたいと考えている。

東 議員：この3年間で、町内会などの役員が変わっても引き継ぎができてないところもあると聞いている。町内会の方の立会いのもと、進めていただきたい。

東 議員：花月園公園は防災公園の位置づけになっており、以前は広域避難所だったが今は特に指定がない状況となっている。今後、どう活用していくかを考えなければいけないと思うが、町内会などの関わりを含め、今後どう進めていくのか。

武 課長：前面道路が完成していないということもあり、それが全て終わった後に広域避難場所としての指定を受ける予定で動いている。指定までの間、どういった活用ができるのか地域の方と協力して引き続き検討していきたい。

東 議員：特殊詐欺が増えてきており、4月末現在で6,600万円もの被害があった。こういった特殊詐欺に対する注意というのにも必要かと思う。私の地域では、まず町内会長に連絡し、町内会長から特殊詐欺が発生しているということを周知してもらおうが、そのような情報発信について区ではどのように対応しているのか。

岩田 地域振興課長：特殊詐欺があったというような情報は、区の方ではリアルタイムに掴んではないが、例えば毎月の区連会の定例会等で警察からこういう事件があったという報告を受けている。また、振り込め詐欺防止のための迷惑電話防止機器の貸与を、警察と協力して進めている。防犯パトロールや地域防犯リーダー研修会など様々な機会を使って、犯罪の防止に努めている。

東 議員：2年前くらいに、総務局の災害用防災スピーカーが区の判断、区の権限で使えるよう変更された際、防災スピーカーを詐欺被害防止に使ってもいいのではという提案をして、警察や、当時の総務課とやりとりしていた。ただ、なかなかそれが進んでいないが、警察と防災スピーカーの活用について、その後話し合いなどはしているか。

武 課長：そういった話があったとは聞いているが、現在、具体的な話は進んでいない。

東 議員：警察の方からはどうなっているかという問合せもある。そういった機会を持つことで警察との情報共有も進むと思うので、お願いしたい。

渡邊 議員：鶴見区では区民まつりや鶴見ウチナー祭など様々なイベントをやっている。共催や後援など様々あると思うが、コロナが落ち着き、これからしっかり支援していくという区の意向を確認しておきたい。

岩田 地域振興課長：いろいろなイベントが復活してきているところであり、基本的に公益性のある行事については積極的に後援、共催、補助などを行っていきたいと考える。後援については、小野町のw e T R E E Sや、生麦旧東海道まつり、その他の文化的な行事、例えば新春の七福神巡りなどに出している。いろいろな行事を通して町が活性化していくのは大切なことであり、全面的に協力していきたいと思っている。

渡邊 議員：小さいところから続けていくことで大きいイベントになり、地域活性、そして千客万来にも繋がると思うので、ぜひよろしく願いしたい。

渡邊 議員：区配事業の自殺対策事業については、6年度から10年度までの対策計画を今検討している。区でもこれまで様々な対応をしてきたと思うが、31年度から5年度の計画に沿った区の対応にはどんなものがあったか。

高橋 高齢・障害支援課長：区の間組は基本的には市の自殺対策計画に基づいて進めている。具体的には、ゲートキーパーの育成研修会の開催や、区民向けの広報啓発などを進めてきた。自殺に繋がる契機は人それぞれ、経済的な問題や病気などいろいろな要素があるが、個別支援の中で様々なサービスを活用しながら支援していくよう努めている。

渡邊 議員：次期計画を作る中で、どんな事例があってどういう成果が出たということはなかなか調べられない。なぜかといえば一度相談した人を追うということができないためだが、初めにこのゲートキーパーが対応することは非常に大事な部分、命を守るために大切な部分になると思うので、大変だと思うがぜひお願いしたい。また、こういうところを改善したいということがあれば、ぜひ言ってほしい。

渡邊 議員：鶴見 DE 子育て応援事業、つるみの未来を育てる保育所事業などいろいろある中で、キッズクラブや学童クラブなどがあまり出てこないが、このあたりはどうなっているか。

児玉 学校連携・こども担当課長：資料に記載はないが、放課後児童の対策は、もちろん区として大変重要だと考えている。最近の課題としては、一部の学校で教室が不足しているところでは、放課後にお預かりする児童も増えている。区としても場所について課題を抱えている状況は把握しており、局や学校などと相談しているような状況となっている。

渡邊 議員：鶴見区は児童が多い中で、配慮の必要な児童もいると思う。対応するスタッフの方たちの研修などもコロナでできてなかったと思うが、今年度はしっかり行われるのか。また、児童数が多い小学校などは、キッズクラブも大変さがあると思うが、その辺も含めてどうか。

児玉 学校連携・こども担当課長：まず研修の関係について、支援の必要な児童、特性のある児童向けの対応研修は、今年度の10月、11月頃にできるよう調整を進めている。また、子どもが大変多くなって対応に苦労されている職員の方については、区でも相談を受けるのはもちろん、局からも相談員が回ったりもしているので、そういったことを活用しながらバックアップをしていきたいと考える。

尾崎 議員：先日の潮田の例大祭で、7時に電気が切られていわゆる模擬店が終了してしまったということで、住民の方から、なぜこんなに早く終わるのかとクレームをいただいた。久しぶりの例大祭だと思いが、これまでと運営上の取り決めの変更などがあったのか。

岩田 地域振興課長：地域の行事であるため、どこが変わったかというところは掴みきれていない。推測ではあるが、宮入りした時点で警備の都合上、終了としたのかもしれない。

尾崎 議員：迷惑電話防止機器の貸出しについて、区民への広報はどのような形で行っているのか。

岩田 地域振興課長：特殊詐欺への注意喚起については、局から発送する介護保険の通知にチラシを折り込んでもらったり、迷惑電話防止機器の貸出しについては、タウンニュースや区広報紙に掲載したりしている。また、鶴見区の特種詐欺被害が増加傾向であるため、警察にもかなり力を

入れていただき、以前は100台前後だった貸出台数が、昨年度は予定をかなり上回る233台となっており、今年度も5月末現在で51台を貸し出している。借りた方からも安心できるようになったとの声をいただいている。

尾崎 議員：地域に貸与の情報がわかりやすく伝わるよう、ひと工夫お願いしたい。

尾崎 議員：ヘルスアッププランの鶴見区健康づくり推進会議で、区民が楽しみながら健康づくりに取り組めるような仕組みづくりを行うとのことだが、ここではどういったことが主に議論されているのか。

藤牧 福祉保健課長：鶴見区健康づくり推進会議では、行政、関係団体、民間企業で共同して健康課題の解決を図っている。ご質問の議論の内容については、健康で長生きし、元気であることができる平均自立期間を伸ばすためにどうすればよいのか等について、意見交換をしている。コロナにより昨年度はこうした会議が開催できなかったが、今年度は再開していきたいと考えている。

尾崎 議員：この会議が旗振りになるわけではないかもしれないが、健康づくりの中でもスポーツという観点で、鶴見区は運動公園などスポーツをする場が少なく、ソフトボールをやっている方から場所がないなど厳しいご指摘をいただいたこともある。公共のスポーツ施設も限られているので、この会議などで企業の皆さんと連携があるのであれば、スポーツができる環境を広げるために何かできないか。他区では、実際に民間の施設を企業と連携して地域に開放していただいているという事例もあるようだ。これは要望だが、企業の皆さんとぜひ意見交換などをしながら、地域の皆さんへスポーツができる環境を提供していただけるようなアプローチ、何か土台になるようなお話をぜひ始めてほしいと思う。

尾崎 議員：北寺尾六丁目公園について地域の皆さんとお話をする、ここはいわゆる広域なまちの広場としての機能ではあるが、例えば災害時に一時避難をしたい、車やテントで避難をしたい、もしくは災害ゴミを置きたいとなったときに、自治会で判断することはなかなか難しいと思う。実際、あの地域は上の宮中学校が地域防災拠点として運営をしているため、自治会の皆さんはそちらの運営に注力することになるため、北

寺尾六丁目公園の対応までは難しいと思う。人員などの考え方もあるのですが結論は出ないと思うが、広場として広域な運用をしなければいけないときには、その自治会だけではなく運用できる仕組み作りを、ぜひ検討してほしい。

柏原 議員：この区づくり推進横浜市会議員会議は、中継などはされていないが、本来はもっとオープンに区民の方々に会議の場が見えると思う。また、大都市制度について、横浜市特別自治市大綱においても、特別自治市への移行に向けて、区長権限や区予算の拡充、議会による区行政のチェック機能強化、住民参画の仕組みの構築などは先行して進めて、特別自治市における行政区の姿を示していくという記載がある。実際に区政を運営する皆さん、そして渋谷区長に、実際そうになっていくメリット、可能性などについて見解があれば伺いたい。

渋谷 区長：まず、区づくり推進横浜市会議員会議の位置づけについては、全庁的な取組であるため区で独自にというものではないが、市政についての透明性の確保というところもあるので、先生方のご意見もいただきながら市全体として議論していかなければいけないと思っている。

また、特別自治市については、横浜市としてもまだ道半ばであり課題も多いという中ではあるが、できるだけ市民の皆さんのご意見もいただきながら、今までの制度でやりにくかったものがどうしたらやりやすくなるのか、どう進めていくと住民主体の自治が進んでいくのかなどの観点から、しっかり考えていく必要がある。

柏原 議員：現状ではなかなか答えにくい部分もあると思うが、30万人に近い人口を有する区であり、それにふさわしい自治のあり方を目指していきたい。

柏原 議員：今日の資料にはないが事業計画書などを見ると、過年度のいろいろな数値を積み上げての今年度の計画だと推察する。これらの庁内での評価の仕組みはどのようになっているか。

武 総務課長：現年度の事業運営や次年度の予算編成の事業効率化等を図るということで、事業評価を毎年実施している。これまでは、事業目的に対する有効性や事業効果の類似性あるいは効率性など、定性的な評価を行ってきた。これらの事業評価は、2年度から4年度までの3年間はコロナ対応に伴う業務への影響を踏まえ、暫定的な措置として、中期計

画関連事業と予算額 3000 万円以上の事業に絞って行った。

ただし、これまでの事業評価は個々の事業単位での見直しにとどまっていたということから、全体最適の観点から政策議論を行える仕組みに変更し、評価を通じた議論を予算編成や政策立案に活用していくことを目指し、5年度から評価制度を再構築している。具体的には、市民ニーズや実施根拠、妥当性といった客観的な指標に基づく分析により、事業評価を行う。いま、これがちょうど始まったところであり、今年度は4年度に実施した事業に対してこの事業評価を全事業で行っていく。あわせて上位の施策目的と事業の関連性を評価する施策評価というのも局で行うこととなっており、全体最適の観点から目的に対して効果的な事業は何なのかということを確認し、来年度の予算編成などに反映していく。

柏原 議員：5月の補正予算で決定した事業に、住民税非課税世帯への給付や商店街などへの補助があった。例えば商店街について6月上旬から募集スタートのものもあったと思うが、区で把握している範囲や局との連携についてはどうなっているか。

岩田 地域振興課長：例えばプレミアム商品券や商店街集客力促進事業など拡充した施策について経済局で市商連に周知をしているが、区でも区商連の会議の場で経済局と区とで説明し、周知している。

柏原 議員：財政ビジョンにある資産活用の観点で、例えばネーミングライツなど収入としてはわずかではあるが稼ぐという観点や、また、公園愛護会などはご高齢の方が体力を振り絞って頑張っておられるので、そうしたところの費用捻出など、財源確保の発想が区にないかなと考えているが、そのあたりの取組状況はどうか。

中島 区政推進課長：財源をいかに確保していくかというところは財政局も非常に力を入れているところであり、全庁的に、財源をしっかりと確保していこうという政策を進めている。おっしゃるとおりネーミングライツなど様々な手法で財源を確保していくことは非常に重要なところであり、設備や施設を有効に活用して実施していくことは今後ありうる場所だと思う。まだ始まったところであり、どのような形で政策を進めていくべきなのか、財源をどのように確保していくのかといったところは、しっかりと検討したい。また、区民の方々の様々な活動などを支

えるための資金調達などといったところも絡んでくるかと思われるが、
どういった形がよいのか局と連携して検討できればと考えている。

山田 議員：鶴見区虐待予防事業について、専門家相談を拡充したとい
うことだが、どのようなところか。

斉藤 こども家庭支援課長：まずは弁護士相談の拡充や、精神科の先生の
相談枠を倍増したほか、発達相談のところで親支援の相談の枠、心理士
相談の枠を増やしている。

山田 議員：虐待防止ということであるといくと妊娠段階からの防止策も重要か
と思うが、鶴見区の事業としてはまだ実施していないということか。

斉藤 こども家庭支援課長：妊婦で精神的な問題を抱えていらっしゃる方
もいるので、ケースバイケースで精神科の先生の相談には妊娠中の方も
入ることがある。

山田 議員：切れ目ない支援というところで大事になってくるところであ
り、区が柔軟に対応していくことを要望する。

井上 議員：地域防災拠点の防災備蓄庫が逼迫しているとのことだが、公
園など別の場所に防災備蓄庫自体を増やすという検討はできないのか。

武 総務課長：今年は防災備蓄庫の中身を整理するというを進めてい
るが、それでも足りないという状況であれば、他にスペースを確保する
という検討は引き続き進めていきたい。

井上 議員：段ボールベッドなどを避難所としての快適性を少しでも向上
させるために調達していたと思うが、全てを地域防災拠点には置けない
ので、どこかに集中して保管しているのではないか。災害のときにすぐ
に取りに行けるのかという問題もある。現状どのようになっているの
か。分散配置などはできないか。

武 総務課長：段ボールベッドはコロナの対応で配備を進めており、いま
地域防災拠点に6セットずつ置いてある。その他は本部である区役所に
置いてあるが、必要になったときの配送等については、引き続き検討し
ていかなければいけないと考える。

井上 議員：コロナの対応だけでなく、やはりご高齢の方にとって冷た
い床に寝るといのは大変なことなので、ぜひ拡充してほしい。